

(記入例)

別記様式第6号

しが多文化共生県民交流推進事業実績書	
主 催 者 名	〇〇〇〇協会
イ ベ ン ト 名 称	〇〇防災交流会
開 催 日 時	令和 8年 〇月 〇日 (日) 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
開 催 場 所	〇〇公民館 大会議室 (〇〇市〇〇2丁目〇〇-〇〇)
イ ベ ン ト の 内 容	①防災ペア・ワークショップ: 日本人と外国人がペアになり、イラストを多用した「やさしい日本語」の資料を使って、避難所の場所や非常持ち出し袋のチェックリストを一緒に確認します。専門用語を使わないコミュニケーションを通じ、相互理解を深めます。 ②まち歩き安全点検 (フィールドワーク) : 会場周辺を実際にペアで歩き、災害時に危険な場所や避難経路を点検します。「あそこは危ない」「ここに避難所がある」と、言葉と視覚の両方で情報を共有することで、いざという時の具体的な行動をイメージします。 ③非常食体験・共助コミュニティ会議: お湯だけで作れるアルファ化米などの非常食を一緒に作り、試食しながら交流します。最後に、日常の困りごとや「災害時にどう助け合えるか」を話し合い、顔の見える関係 (共助ネットワーク) を築きます。
参 加 人 数	計 〇〇人
多文化共生に係る 県 民 交 流 の 状 況 ※写真を添付すること。	終始、やさしい日本語でのコミュニケーションがなされていた。ジェスチャーを交えながら、お互いに楽しそうに試行錯誤をしていた。 一緒に同じものを食べることで、より親近感が増しているようだった。
参 加 者 の 感 想	(日本人) 「日本語でコミュニケーションを取れることが意外だった。これからはやさしい日本語で話しかけてみたい。」 「日本人も外国人も同じことで困っていることが分かった。いざという時は一緒に助け合っていきたい。」 (外国人) 「避難所のことを初めて知った。知人にも教えてあげたい。」 「日本人と日本語で会話ができて、とても楽しかった。」